

令和7年度 勝田第一中学区市政懇談会

日時：令和7年7月15日（火） 18：30～20：00

場所：1中地区コミュニティセンター

【事前質問】 なし	1
【懇談内容】	1
1 自治会加入に伴う特典について（大成町自治会）	1
（市民生活部長回答）	1
（再質問）	2
（市長回答）	3
2 ひたちなか学生エール便の対象について（金上自治会）	3
（企画部長回答）	3
3 子どもの挨拶教育について（笹野自治会）	3
（教育長回答）	4
4 ふるさと納税の実績について（金上自治会）	4
（企画部長回答）	4
（再質問）	5
（企画部長回答）	5
5 交通状況の変化に伴う対策について（笹野自治会）	5
（建設部長回答）	6

【事前質問】 なし

【懇談内容】

1 自治会加入に伴う特典について（大成町自治会）

最近、自治会に入ってるメリットが感じられないと言う会員が増えてきています。決定的に加入する魅力が無く、年々自治会の加入率が低下しています。この低下は全国的なものと思いますが、他市町村で行われている自治会カードのような、目に見える形での自治会に対する特典みたいなものを何か考えて頂きたいと思います。すでにご検討しているのであれば、実現できない理由をお伺いしたいです。

（市民生活部長回答）

お話しいただきましたように自治会加入率の低下は全国的な傾向でございまして、ここひたちなか市においても50%を切ったような状況でございます。今しがた、他市町村の取り組みをお話いただいたんですが、ひたちなか市においては、具体的な目に見える形の取り組みはまだ検討にいたっておりません。

やはり日々模索する中で、自治会の新しい形やメリットデメリットでインターネット検索しますと、なかなかちょっとメリットデメリットという表現とはまた違った切り口が必要なのかなと思います。

ご承知だと思いますが、やはり豪雪地帯っていうのは自治会の加入率はほぼ100%であって、これはメリットでデメリットというよりは、やはり地域の共同作業がないと、そもそも生活が成り立たないっていうところでございます。

また、南海トラフ地震を想定している地域においても、やはり非常に加入率が高く、災害のときに助け合いの必要性を考えますと、やっぱりメリットデメリットなのかと思いつてございます。

ではどういった形で模索していくのかというところは、これからの課題でもありますけれども、先ほどのパワーポイントを使った説明にも繋がりますが、いわゆる違う形でひたちなか市のファンを増やしていく新たな取り組みがありますけれども、それが自治会の加入率や活性化の維持に直結するかどうかというのはまた別だとは思っています。

ここひたちなか市は活発な活動を行っている団体も多いですし、また、多種多様な産業がありまして、市外から多くの人に関わっており、転勤してきてここにお住まいの方、関係人口、交流人口なども少なくない地域だと思っております。

また別の取り組みとして、まちづくりカフェを昨年は大島地区と那珂湊地区で、今年度は前渡地区で開催予定でございまして、これは地域で活動する団体の横の繋がりを図っていくための顔合わせでございます。この地域で活動している団体、またここに住んでいな

くても、この地に縁があって何らかの形で地域貢献を考えていただいている団体にできる範囲でできることから、地域の活動の側面から支えていただけないかと期待しているところです。

具体には、昨年那珂湊地区で行われたまちづくりカフェで、生命保険会社の方がその趣旨に賛同をいただきまして、阿字ヶ浦地区で健康に関する講話などをすでにやっていたいでます。

繰り返しになりますが、これが自治会活動に直結するかはどうかはまた別なんです、やはりこういった活動が展開していった裾野が広がっていき、自治会のサポートに繋がっていければと我々としては期待しております。

（要望）

ひたちなか市に対するファンを増やすなどの取り組みやまちづくりの活性化のためのいろんなイベントは理解できますが、自治会を存続するために、直接的な施策を実行すべきだと思います。

（市長補足）

何かメリットがあるから、それが今度加入率に直結するのかという点とまた違うと思います。その因果関係がないということもありますので、やはり施策と効果は見極めていかなきゃいけないというふうに思ってます。

ただ、やはり地域ごとのまちづくりの主役は自治会やコミセンであるというのは、我々も思っておりますので、何とかここを立て直したい。自治会の皆さん方や自治会連合会でもいろいろやってると思うのですが、自治会の中でもその運営のやり方を見直していく必要もあるのかなと思っています。

例えばですが、もうお祭りで準備する側はもう高齢化できない場合には、キッチンカーや舞台も全部発注するところもあります。

あと若い方々がもう自由にやらせてもらえるなら、自己表現ができる空間だというような形で若い人たちが入ってくれるというようなところもあったりします。いろいろとそれぞれの自治会の持つてその資源を生かして工夫をしています。

当然そこでやってるからこっちでもできるかっていう話ではないと思いますが、何かそういった自治会連合会のいろんな取り組みの芽も出てきているところで、そういったことも一緒に検証させていただきながら、我々も努力するわけではありますが、効果的なことをやっていく必要があると思っています。

（再質問）

自治会カードなどはあまり考えていないのですか。

(市長回答)

たぶんいろんな政策を考えていると思いますが、我々はそれが自治会の加入率に直結するという結論にはまだ至っておりません。むしろその自治会に入る必然性をどういうふうに作っていくのかっていうことを考えないといけないと思っております。

2 ひたちなか学生エール便の対象について（金上自治会）

ひたちなか学生エール便についてですが、コロナ禍で始まったと記憶していますが、今後も続く予定なのかということと、あと社会人は対象にならないのかを伺いたいです。

(企画部長回答)

当初は、コロナ禍で学生さんが県外に転出して、がんばっていらっしゃることを応援の意味も含めて特産品を送付したものでございます。この事業ですが、少しずつ品物を変えたり或いは少しいろいろな目的を添えたりして続けております。実は今8種類ほどの応援品を送っており、お友達にも自慢できるひたちなか市の品物を送って、宣伝していただくという目的も込めています。

また、おかげさまで33,000人を突破いたしました市の公式LINEは、皆様方に市のいろんな取り組みをお知らせするツールとして活用させていただいております。この登録が1つ要件となっております。これは市外に学業のためにお移りになられてからも、市で行っていることを知っていただくという目的でございまして、欲を言えばUターンしていただくとの思いでございます。今年度も5月10日から受け付けましたところ、1ヶ月ほどで800名の要望あり、締め切らせていただいて届けたところでございます。

これ以外にも戻ってきて欲しいという思いで、市が行ってる事業1つは、学生さんに地元の企業とチームになって企業の改善プランと一緒に考えませんかという絆構築プロジェクトです。こちらは、市外出身の方もこれを機会にひたちなかの企業さんを知る機会ということで、UIJターン事業として行っております。

この他にも移住定住など、いろんなことを知っていただくためのものでございます。これらの事業は1回始めたからずっと同じではなく、もっと効果的な方法がないかということ日々考えながら、やはり学生さんには戻ってきて欲しいという思いがございまして、その辺は考えながら進めていきたいと思っております。いろいろと事業にご参加いただいております。ありがとうございます。

3 子どもの挨拶教育について（笹野自治会）

私は民生委員関係で毎朝子供たちの見送りしていますが、僕らが挨拶しても下を向いて黙って挨拶してくれません。学校で挨拶するなという指導をされているとか、変なおじさんがいるからあいさつするなとか、そういうことはもちろん無いと思います。

ただし、変なおじさんがいるから関わるなという親の人もいます。先日発達障

害の方が歩いて、子供におはようと言われたらお母さんが警察に電話していて、次の日には警察が巡回していることがありました。やはり子供たちには、おはよういったらおはよう、車が止まってくれたら、ありがとうと頭を下げるようなそういう教育を受けさせていたいただきたいです。

(教育長回答)

おっしゃる通りそういうことはないと思います。一時期いじめの問題が全国的に話題になった時に、本市においては平成25年から笑顔プロジェクトということで、学校によっては挨拶運動を登校時にしましょうとか、いろんな学校で学校独自に考えてやり始めていまだに継続しております。

当然教員の方から挨拶をするな、なんて言うことはおそらくありえないでしょうし、もしもご家庭の中でそういう話題が出るとすれば、先ほどおっしゃられましたように、知らない方とのやりとりっていうことに敏感であるかもしれません。

ただいづれにしましても、地域が明るくなるためには、挨拶はこれ欠かせない前提の条件だと思いますので、私どもといたしましても引き続き進めていく方向で、学校にも伝えて参りたいと思います。

先ほど発達障害の方とかいろいろご心配いただいたと思いますが、いわゆるグレーゾーンと言われるような知能面での特性を持つ方とかも、学校の現場でいろいろ気をつけて見ていってあげなきゃいけないなんていうことも言われ始まっているところです。

その他に、女の子は小学校4年生あたりからは思春期に入りますので、男の子ももう少しすれば大人に対して少し自立し始める。今まで親のことを聞いていたのが、今度はどっちかっていうと、異性に興味が出始めるのが思春期ですので、ちょっと関心の対象が大人ではなくて、違うところ、友達の方に行くっていうのが、小学校4年生以上になってきますので、そこら辺も少し複雑な心境に入っているのかなと思います。

言葉をかけられなかったお子さんが何年生のお子さんかわかりませんが、そういう難しい時期に差しかかるのも小学校の中学年以上なのかなとだけは付け加えさせていただきたい思います。

明日また校長会がありますので、校長の方には挨拶はするようにと申し伝えたいと思います。

4 ふるさと納税の実績について（金上自治会）

先ほどふるさと納税のお話があったと思いますが、昨年度の実績、つまり、入ったお金と出ていくお金を把握されているのかをお聞きしたいと思います

(企画部長回答)

ふるさと納税について、寄付で入ってくる分と逆に寄付で出てってしまった分のこと

だと思いますが、実際に2つを合計するとどうなっているのかをご説明させていただきたいと思います。このふるさと納税の寄付は、いわゆる寄付された分すべてが収入になるわけでもなく、或いは出ていった分がすべて損失になるわけでもありません。その辺を少しかいつまんでお話をしたいと思います。

まず令和6年度の寄付の金額が約3億4,600万円でございます。ただ、返礼品の送付や、様々なサイト等を使っている諸経費もございますので、大体半分ぐらいは返礼品とサイト使用料ということで減ります。よって、3億4,600万円のうち実際の収入はおおよそ1億7,500万円ほどとなります。

次に、市民の皆さんが寄付している額は9億3,700万円です。これがすべて市だけが減収になるかというと、国も減収になりますので、大体半分ぐらいが市の減収になります。計算方法があるのでぴったり半分ではありませんが、約4億6,000万円分が市の減収分です。

このふるさと納税は国の制度ですので、4億6,000万円の減収になりますが、この75%を国が補償することになっています。よって、約3億4,500万円が補償されますので、実際が目減り分は1億1,500万円になります。

そして、最初に戻りますと実質的に増えるのが1億7,500万円、減るのが1億1,500万円、トータルすると6,000万円ほどが市のプラスになります。以上が市の差引収支となります。

(再質問)

県内でふるさと納税がすごく盛んな市町村もあれば、そうではない市町村もある中、ひたちなか市は、茨城県内どのくらいの位置にいますか。

(企画部長回答)

1年前のデータですが、ひたちなか市の額が令和5年は3億5,987万円。順番としては44自治体中17番目ということございます。

5 交通状況の変化に伴う対策について（笹野自治会）

今、各所で道路整備されているのはよく見かけますが、道路が良くなると同時に車の交通量が増えています。笹野町でいいますと、消防署西交差点の右折車線を広げていただいたのですが、それでも渋滞が起きてる。右折車でその車線の手前まで詰めているため、直進車は通れないという問題があります。またそこが混んでいるため、横道にショートカットする車も多いです。

最初の頃はすごく事故が多かったんですが、最近、歩道整備等され表示が派手になったからだと思いますが、おかげで減ってきたという経緯があります。そういういろいろ施策をうたれていると思いますが、車の交通量の把握というのはどうやってされているんですか。

道路の整備がどんどん進むに従って車の流れも変わり、なおかつ増えてきている。この辺に対して、今後の調査を含めどのような対応をされていくのか、もし計画があれば教えてください。

(建設部長回答)

消防署西交差点の整備は、以前から住民の方や市議会からもご要望がありまして、それで整備が進んだわけなんです。中央分離帯にありました銀杏の木を伐りまして、短かった右折レーンを規定の長さまで伸ばしました。現状、あそこの交差点はきちんとした直角の交差点ではなく、少し交差点内でくの字に折れているところがありますので、勝田駅から来て、西中根の方へ右折する場合に、直進車が見えにくく曲がりにくいところもございます。

逆に、海の方から勝田駅に向かって右折する車の場合ですが、その周辺に商業施設があり、お客様が多数いらっしゃるために、予想以上に右折車が多くなっています。今のところ特段大きな事故には至ってはいませんが、右折が多いために直進を塞いでしまい、渋滞が起きていることも現状として把握しております。ただ、常時渋滞をしているわけではなく、やはり時間帯にある程度その特徴があると思いますので、渋滞がますますひどくなるようでしたら、工事が1回終わったからといって、全く改善しないというわけではなくて、この状況に応じて、また新たにその右折レーン伸ばすことも検討が必要になってくると考えられます。一つの例ですが、右折の車が多いところは、国道6号等を見ますと、規定の3倍の長さを設けて渋滞を極力抑えるような工夫はしておりますので、今後の交通量の推移を見守りながら対応してまいりたいと思います。

交通量に関して、幹線道路は国土交通省でデータをとっておりますが、具体その交差点をまた改良するときには、こういう時間帯に右折が多いとか、渋滞が起きることなどを直接調査した上で、その交差点改良に当たりましては、警察と協議をし、整った後で工事に入ります。